

■発足8年目を迎える島根大学ミュージアム

平成25年4月、島根大学ミュージアムは、創設8年目を迎えることになります。ミュージアムでは、これまで展示・普及啓発事業、学生教育、構内の埋蔵文化財行政など、多種多様な業務の遂行に邁進してまいりました。

普及啓発活動としては、月1回の連続市民講座、子供向け教室、フィールド体験ツアー、キャンパスツアー、公開授業、常設展示、企画展示などを行っています。平成21年10月、サテライトミュージアムとして市内にオープンした島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）では、学内外団体との共催による展示会などを開催し、多くの来館者にご覧いただいているところです。

学生教育では、各学部の学芸員資格取得に関わる授業について、ミュージアムが一元的に開講しています。平成24年度からは、資格取得に必要な授業科目が大幅に増加し、これまで以上に学生教育に対する責任が重くなっています。ミュージアム所蔵標本類などもいかした、実践的な博物館学教育を推進していきたいと考えています。

少數の教職員で実務にあたっている小さな組織ではありますが、今後とも真摯に諸業務に取り組んでいく所存です。学内外の皆様からのご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

島根大学ミュージアム館長 林 正久

島根大学ミュージアムのいろいろな活動

（1）資料類を活用した展示・普及啓発活動

島根大学ミュージアムは、「人とともに・地域とともに」という本学のキャッチフレーズを具体的に実現するために、様々な展示・イベント・学外向け教育普及プログラムを開発・企画・実施しています。

■常設展示・企画展示 島根大学の教育研究で収集された標本資料類や研究成果を分かりやすく展示紹介しています。



常設展示 (ミュージアム本館展示室)

平日9:00～16:30開館。キャンパスから出土した考古資料、教材として使われていた剥製などが展示されています。



企画展示「旧制松江高校出身 永井隆博士」
没後60年企画展～己の如く人を愛せよ～
(23.12.5～23.12.28)

『長崎の鐘』著者で本学OBの永井隆博士を顕彰した展示会。

■ミュージアム市民講座 毎月1回、土曜日の午後に開催しています。島根大学の様々な専門分野の教員が、教育研究成果を、市民向けに分かりやすくリレー講義しています。



第25回市民講座「南極とラブラドル(カナダ)の氷河地形と地球環境」(22.10.2)

標本を用いた講義の1コマです。



第31回市民講座「考古学からみた『出雲国風土記』と出雲国府」(23.2.5)

たくさんの古代史ファンが聴講しました。

■フィールド体験ツアー

豊かで多様性のある島根県内の自然・歴史・文化資源を「まるごとミュージアム」とみたて、現地に訪れ見学します。県内に埋もれた地域資源を再発見してもらうことをねらいにしています。



**第6回島根まるごとミュージアム体験ツアー
「日本のフレスコ画・石見銀山周辺の鎧絵を鑑賞する」(22.11.13)**

明治～昭和初期に石州左官職人によって残された鎧絵を見学しました。



**第7回島根まるごとミュージアム体験ツアー
「島根半島の信仰遺跡巡礼」(23.5.21)**

「出雲国風土記」に記載されている信仰の対象となった岩屋(洞窟・岩陰)に訪れ、古代人の宗教観を学びました。

■親子で学ぶ子供ミュージアム体験教室(小中学生向け企画)

島根大学がもつ研究機器や機材を活用して、小中学生向けに様々なミュージアム体験をしてもらうミュージアム・スタート活動です。

これまでに、宍道湖や里山での自然観察会、遺跡見学、科学実験、標本作り、電子工作などを実施しています。子どもたちに、島根大学でどんな研究をしているのか、大学内部がどうなっているのかについても知ってもらいます。



夏休み子どもミュージアム体験教室「探検! サルガ鼻洞窟遺跡」(22.8.2、協力:島根大学汽水域研究センター)

中海北岸にある縄文時代の国史跡・サルガ鼻洞窟遺跡に、汽水域研究センターの船でわたり、縄文人の暮らしについて学びました。



**冬休み子どもミュージアム体験教室で
LEDを使った電子工作に挑戦!**

(22.12.18、協力:島根大学総合理工学部
パワー・エレクトロニクス研究室)

LEDの研究開発を進めるパワー・エレクトロニクス研究室の指導のもとに、LEDを使ったクリスマスイルミネーションの電子工作をおこないました。

■キャンパスツアー

松江キャンパス内の各展示施設・研究室などをめぐるキャンパス・ウォーキングツアーです。

小中高校生・受験生・保護者・島大OB・市民一般の方々に、島根大学キャンパス内や学生生活の様子を理解してもらいます。

キャンパスの敷居を低くして、地域から親しまれる大学作りを進めるための一環です。



キャンバスツアーで登録文化財・島根大学正門を見学する、カンボジア訪日団の皆様(23.11.29)

■国登録有形文化財・島根大学旧奥谷宿舎(サテライトミュージアム)での催し物

大正時代の洋館、国登録有形文化財・島根大学旧奥谷宿舎(旧制松江高等学校外国人宿舎)では、島根大学史をテーマにした常設展示のほか、大学メセナの一環として、学内外団体との共催による作品展などを開いています。こうした活動を通じて、市民・観光客の方々に島根大学について知ってもらうとともに、地域の活性化に貢献することも期待しています。



夜遅くまで展示準備する学生たち～島根大学写真部主催
「水無月展」の準備風景 (22.6.22)



島根大学法文学部言語文化学科芸術学演習
成果発表「七色八雲 百二十年の響鳴」(23.1.15～2.6)

(2) 学生教育

一般教養課程、学芸員養成課程の授業を開講しています。

島根大学では、法文学部、総合理工学部、生物資源科学部の3学部で学芸員資格を取得することができます。毎年70～90名の学生が資格を取得しています。

実習では、ミュージアム所蔵標本などを活用した授業を展開しています。



資料の取り扱いを練習する学生たち

(3) 構内にある埋蔵文化財の調査研究

島根大学松江キャンパス全域や出雲キャンパスの一部は、縄文時代以来の遺跡(埋蔵文化財)に指定されています。建物建設などが行われる際は、「文化財保護法」に従って、発掘調査をおこない、遺跡の保護・記録などにあたります。

これまでに19次におよぶ発掘調査のほか、試掘調査、立会調査を実施しています。



学生支援センター建設に伴う発掘調査の様子 (20.8)

モノを楽しむ～明治以来の学び舎に残された島大コレクションの数々～

島根大学が所蔵する標本のなかには、戦前に収集され、現在では入手困難な、非常に希少なものが含まれています。こうした古い標本は、明治・大正時代以来の歴史と伝統を有する総合大学ならではのものです。

島根師範学校の動物標本

管 理 部 局 ミュージアム

収蔵・展示場所 ミュージアム本館

標 本 内 訳 剥製標本、骨格標本

解 説

島根大学教育学部の母体となった、戦前の島根師範学校で、教材として使用されていた標本類です。島根大学教育学部附属中学校に保管されていたものが、平成23年度、ミュージアムに移管されました。島根師範学校は、現在の松江市立第一中学校がある場所(松江市外中原町、月照寺の南西側)にありました。戦後、島根師範学校が島根大学教育

学部となり、現在の松江キャンパスに移転したあと、校舎は、昭和46年まで附属中学校として使用されていました。その際、島根師範学校の標本は、もとの校舎に残されたままとなり、現在の附属中学校に引き継がれたものと考えられます。特別天然記念物を含む動物標本などからなっています。



ニホンカモシカ剥製標本

本州・四国・九州の山岳地帯に生息する日本固有種。
標高の高いブナ、ミズナラ林にすみます。国の特別天然記念物。



オガサワラオオコウモリ剥製標本

世界遺産・小笠原諸島の固有種。現在、父島では150頭ほどしか生息していない、希少種です。

トピックス

■「島根大学標本資料類データベース」が業務実績評価で注目事項に！

平成23年度に制作した「島根大学標本資料類データベース」が、文部科学省の国立大学法人に対する平成23年度「業務実績評価」の中で、注目事項としてプラス評価されました。

このデータベースは、島根大学が所蔵する様々な標本資料類をインターネットで検索・閲覧できるようにしたシステムです。現在、地道に登録作業を続けており、3500件以上の資料が収録されています。



「島根大学標本資料類データベース」のURLはこちら

»<http://museum-database.shimane-u.ac.jp/specimen/>

■新展示室の構想

現在、島根大学ミュージアム本館の展示室は、10畳程度のスペースしかありません。また、収蔵庫も満杯でこれ以上の資料受け入れが困難な状態となっています。

このような事情から、将来的には、現ボイラー室を改修し、新しいミュージアム施設として再利用することが、平成20年に策定された「島根大学キャンパスマスタークリーン」において計画されています。

誰もが気軽に訪れ、さまざまな展示資料を見学することができる新ミュージアムのオープンが、期待されています。



現在のボイラー室

■ 発行日 2013年1月25日

■ 編集・発行 島根大学ミュージアム Shimane University Museum

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL/FAX 0852-32-6496

ホームページ <http://museum.shimane-u.ac.jp/> E-mail: museum@riko.shimane-u.ac.jp

